

組合だより

JA

おからく

2026

4

vol.286

令和8年4月13日発行

発行：おかやま酪農業協同組合

責任者：小椋 孝史

津山市川崎94-1

☎(0868)26-1101

令和7年度

「牛乳大好き！絵画コンクール」受賞作品



優秀賞 教育長賞 岡山市立灘崎中学校1年 山口 和真
(絵の説明)

牛と牛乳瓶に入った牛乳の絵を描きました。キャッチコピーは「カラダ喜ぶミル活タイム、栄養たっぷり今日の本」とし、給食で飲む牛乳の大切さを表現しました。

第10回 おかやまブラック&ホワイトショウ開催

3月21日おかやまホルスタイン改良同志会(会長 山本真五)主催による「第10回おかやまブラック&ホワイトショウ」が全農岡山県本部総合家畜市場で開催されました。

審査員にはオールジャパンブリーダーズサービス(株) 営業部 部長 前田直樹氏をお招きし、未經産牛の部5部制21頭、経産牛の部5部制16頭、出品頭数37頭の審査を的確に行ってくださいました。

グランドチャンピオンには真

庭市の長恒牧場出品による「ロングゲスト デリア ラムダ インバイト」号、リザーブグランドチャンピオンには津山市の吉原直樹さん出品による「グランデール オカメ ET」号が選ばれました。その他の結果については別表のとおりです。

また、今回はジュニアショウには3名の参加で



8部 チャンピオン
グランドチャンピオン
インターメディアイトチャンピオン
真庭市 (有)長恒牧場 所有

したが、前田審査員により親しいな指導を受けることができました。なお、優秀賞には大学生の部で永緑花琳さん(中国四国酪農大学生)、高校生で井上裕斗さん(岡山県立高松農業高等学校)、小学生以下の部で長恒俊輔さん(小学校6年生) 長恒泰裕さん(ご子息)がそれぞれ選ばれました。

最後に公私ともにお忙しい中、ご来場いただいた関係者各位に心からお礼申し上げます。
(生産支援課)

第10回おかやまブラック&ホワイトショウ成績(各部首席)

部	成績	名	号	生年月日	住所	氏名			
未 経 産 の 部	1部	チャンピオン	ロングゲスト ブルズアイ モアナ	ET	R07.04.02	真庭市 (有)長恒牧場			
	リザーブチャンピオン	ミヒラ セジモント アイキヤンデイー		R07.04.23	真庭市	筒井省悟			
2部	チャンピオン	CF ラマドナ ゴー	ビヨンド	ET	R07.02.05	岡山市 (株)松崎牧場			
	リザーブチャンピオン	カヤベ セイエラ アイキヤンデイー	オツチイ		R07.03.16	真庭市 (公財)中国四国酪農大学生			
3部	チャンピオン	カヤベ セイエラ プレシヤス	ジエシカ		R06.10.23	真庭市 (公財)中国四国酪農大学生			
	リザーブチャンピオン	ラツキーホン クレイグクレスト	フルローズ		R06.10.11	笠岡市 (株)Farm Luckyhon			
4部	チャンピオン	ジュニアチャンピオン	カヤベ ツアーリ	ミーゴス テイスル		R06.09.18	真庭市 (公財)中国四国酪農大学生		
	リザーブチャンピオン	TK チムリン	トレシー	ミヤオール		R06.07.25	津山市 辻賀裕		
5部	チャンピオン	ロングゲスト	キングスウエイ	アイキヤンデイー	1 フタゴ	R06.06.09	真庭市 (有)長恒牧場		
6部	チャンピオン	CF	バルドック	アイキヤンデイー	アウラ	ET	R05.12.04	岡山市 (株)松崎牧場	
	リザーブチャンピオン	ヒールクレスト	アリゲーター	バリエント		R06.01.31	岡山市 妹尾優佳		
7部	チャンピオン	リザーブ・グランドチャンピオン	グランデール	オカメ	ET		R05.05.27	津山市 吉原直樹	
	リザーブチャンピオン	ラツキーホン	クリーム	KING	ルーシー		R05.07.08	笠岡市 (株)Farm Luckyhon	
8部	チャンピオン	グランドチャンピオン	インターメディアイトチャンピオン	ロングゲスト	デリア	ラムダ	インバイト	R04.08.21	真庭市 (有)長恒牧場
	リザーブチャンピオン	グランデール	ヒキワリ	ET		R04.12.05	津山市 吉原直樹		
9部	チャンピオン	シニアチャンピオン	ヒールクレスト	ランダー	ビューテイー		R03.12.17	岡山市 妹尾優佳	
10部	チャンピオン	ロングゲスト	ラマニア	サイドキック	ルル		R02.09.21	真庭市 (有)長恒牧場	
	リザーブチャンピオン	グランデール	チツチヨ			R03.02.25	津山市 吉原直樹		

第21回おからく青年部・女性部酪農発表大会

3月13日、おからく本所3階大ホールにて「第21回おからく青年部・女性部酪農発表大会」が開催されました。

来賓として岡山県農林水産部畜産課課長 森分哲彦様、技師 大坂文美恵様、(一社)岡山県畜産協会会長 中塚陽二郎様、全酪連大阪支所組織指導課審査役 大竹綾子様、全酪連中四国事務所所長 阿部真之介様にご臨席いただき、青年部・女性部含め約70名が参加しました。

『高水準を貫く酪農経営』
『循環型モデルで実現する』

品質と収益性

我が家の酪農経営は昭和47年に父・泰治が中国四国酪農大学を卒業する際にジャージー仔牛を1頭譲ってもらったのが始まりです。翌48年には、36床の搾乳牛舎を新設し、平成2年に56床まで増築し、ホルスタインとジャージーの分別出荷を始めました。私は幼少期から実家の牧場を手伝い、作業しているうちに将来は酪農家になりたいと思うようになりまし。全日本ホルスタイン共進会で父の出品牛が名誉賞を獲得し涙する姿を見て、父のような酪

農家になることを決心しました。大学や海外研修を経て23歳で就農し、ホルスタインとジャージーの混飼からホルスタインのみへ変更し、現在に至ります。

我が牧場の転換期は、牛舎新設による効率的な経営への移行です。牛の能力を最大限引き出すため5年かけて構想し、牧場視察や情報収集を重ね、規模は100頭に設定しました。つなぎ飼いと「チャレンジマン20P」を導入し、搾乳・給餌・個体管理をデータ化。作業効率と飼料効率が向上し、生産量も増加しました。DXにより作業の標準化と省力化を実現し、労働生産性と個体成績



発表者の長恒泰裕さん

の向上、持続的経営の基盤を築いています。

暑熱ストレス対策としてトンネル換気を導入し、温度に応じた自動制御で牛舎内の風速と温度を最適化しました。これにより繁殖率低下や乳量減少、疾病リスクを抑制。さらに送風機を追加し「ハイブリッドL換気システム」を構築、暑熱期でも高い乳量・乳質を維持し、体細胞数の安定や疾病減少を実現しています。

また、休耕田の増加を受け、所有地と借地を合わせた41haで牧草サイレージを生産し、粗飼料自給率向上とコスト削減を実現。燃焼灰を活用した堆肥還元で環境配慮型の循環酪農にも取り組んでいます。地域ではコントラ組合の組合長として共同作業による効率化と良質飼料生産を推進し、受賞実績も有するなど地域資源活用と景観維持に貢献しています。

牛舎新設にあたり総事業費3億円を超える事業を行う決断は、本当に怖かったです。酪農仲間や同級生からの熱いアドバイスやエールが励みになりました。感謝に堪えません。今こうして大好きな酪農ができてきたのも、両親が長年にわたり努力してきた酪農経営があるのだと改



質疑応答のようす

めて感じる事ができました。これからも妻・久花をはじめ、牧場スタッフとともに、両親に負けないような長恒牧場の新たな歴史を作っていきます。と発表されました。

長恒さんは、4月6日に山口県「セントコア山口」で開催される第55回西日本大会に出場されます。多数の応援をよろしくお願い申し上げます。

(生産支援課)

第25回おからく女性部総会開催

3月13日、おからく本所3階大ホールにおいて、「第25回おからく女性部総会」が開催されました。

上程した議案については、全て原案どおり可決されました。また、今年度は役員改選の年で、新たな体制でのスタートとなりました。

今年度も女性パワーを発揮し、パワフルに活動していきたいと思います。よろしくお願いいたします。

【新役員】（敬称略）
委員長

安富由美子（備前地区）

副委員長

武内 開子（備南地区）

入澤富士子（美作地区）

監事

東山 里美（備南地区）

岸本 美加（美作地区）

委員

大森かおり（備前地区）

福田 祐江（美作地区）

倉永 恵美（美作地区）

雲岡 阿耶（びほく地区）

三宅夏央里（びほく地区）

岡田みぎわ（備前地区）

永禮 明美（美作地区）

長恒 久花（美作地区）

（生産支援課）

第25回おからく青年部総会開催

3月13日、おからく本所において、「第25回おからく青年部総会」が開催されました。

上程された議案については全て可決されました。また、備前・備南・びほくの3地区青年部は合併し、「備新青年部」として今後活動していくことになりました。

本年度は役員改選の年にあたり、新委員長に小橋敏行さんが選任されました。今後は新役員の皆さんとともに、より一層交流を深め、酪農業界の活性化に向けて活動していきます。

【新役員】（敬称略）

委員長

小橋 敏行（備前地区）

副委員長

平野 友博（備南地区）

上森

亨（びほく地区）

監事

長綱 雄一（美作地区）

委員

安富 照人（備前地区）

難波 晃大（備南地区）

三宅 勇輝（びほく地区）

小村 拓矢（美作地区）

佐賀 大晃（美作地区）

樋口 貴明（美作地区）

中村 宏之（美作地区）

藤本 実（備前地区）

野住 卓也（備南地区）

宮野 晃好（美作地区）

國富 大地（美作地区）

三浦 正之（美作地区）

山田 俊宏（美作地区）

（生産支援課）

備南青年部総会開催

2月27日、焼肉「たにもと」にて、「令和7年度備南青年部総会」が開催されました。

例年とは違い、備前・備南・びほくの3事務所の合併についての議案も提出された総会となりましたが、無事承認され、備南青年部として最後の総会となりました。

通常総会終了後、解散総会を行い、焼肉を食べながら懇親を深め終了となりました。

今後は新しい青年部としての活動となりますが、引き続きよろしくお願いいたします。

（備南事務所）

びほく地区青年部総会開催

2月25日、高梁市「オモ二亭」にて、「びほく地区青年部総会」が開催されました。

上森部長の挨拶に始まり、全酪連澤田様に祝辞をいただきその後議事に入りました。

今回の総会のメインの議題は3事務所（備前・備南・びほく）青年部合併でした。

第1号議案、第2号議案は可決され、その後、上森部長より、3事務所青年部役員会での協議内容を説明してもらい、参加者全員一致で合併が承認されました。

その後は焼き肉を食べながら合併後の青年部活動等の話で盛り上がりました。

今回の総会をもってびほく地区青年部は解散となりますが、新しい青年部でさらなる活動をしていきたいと考えています。

最後に、来賓の皆様、青年部の皆様、お忙しい中ご出席いただきありがとうございました。

（びほく事務所）

日本酪農政治連盟総会・ 自民党酪政会との懇親会に参加

3月4日、日本酪農政治連盟は東京の自民党会館で中央委員会・総会を実開催し、終了後自民党酪政会と懇親会を開催しました。岡山県酪政連からは三宅委員長・東山副委員長が参加しました。

総会に先立って開いた中央委員会で、柴田委員長は、「地域の実情に合わせて要請活動を展開していくことが必要」と、各委員からの意見を踏まえ対策を協議していく考えを示されました。また、森山顧問は、「日本は島国であり、物流が途絶えれば大変なことになる。食料安全保障を確固たるものとし、自給できる体制を整えていくことが大事」。結びに



総会風景

「さまざまな課題があることは承知をしている。牛乳・乳製品を生産している酪農家が、強く希望の持てる産業として、さらに発展させていくことが大事だと考えている。課題をしっかりと解決させていきたい。課題を、酪農がさらに発展できるように、議論を尽くしたい」と語られました。通常総会では、各委員より、改正畜安法の問題・脱粉対策・食料品消費税0%実行時の対策など切実な現状を訴える声が寄せられました。

委員からの意見を踏まえ25年度運動方針は、引き続き、需給調整対策や酪農生産資材の高騰、国産飼料の増産、酪農ヘルパー要員確保を含めた担い手確保等に対する支援確保に向けて要請活動を展開することとしました。今年度は役員改選年度であり、委員長に栃木県の白井 勉氏が就任されました。

総会後に自民党酪政会との懇親会が開催され、地元国会議員の皆様が会場に駆けつけ、我々に激励の言葉をいただきました。

今後酪農政治連盟を通じ情勢にあった要請活動を展開してまいります。

(岡山県酪政連事務局)

岡山県酪農政治連盟美作支部大会開催

3月24日、おからく本所3階大ホールにおいて、「岡山県酪農政治連盟美作支部大会」を開催いたしました。

来賓に岡山県議会議員の山本雅彦氏・河野慶治氏・清水薫氏の3名と国会議員秘書の方々、日本酪農政治連盟幹事長 南部顯弘様、おからくより檜尾康知代表理事組合長及び岡山県酪農政治連盟より三宅穰次委員

長をお迎えし、多数の会員の方にご参加いただき、盛大に開催いたしました。

議長には立田豊常氏が選出され、議事が進行されました。村岡真一、太田廣副委員長が令和7年度の活動報告及び令和8年度の活動計画を、福田博文会計責任者による会計報告、収支予算案の説明がそれぞれ行われました。議題については全て

において賛成で可決され、滞りなく次の年度へ活動が引き継がれることとなりました。

また、新役員についても協議され、委員長に永禮淳一氏(新任)、副委員長に福田博文氏(新任)、山田俊宏氏(新任)が選任され、新しい体制でスタートすることとなりました。

小村委員長の挨拶

今回の美作支部大会開催にあたり、加藤勝信先生をはじめ、たくさんの方々の国会議員、岡山県議会議員の方々から祝電をいただきました。感謝いたしますとともに、お礼を申し上げます。ありがとうございます。

(岡山県酪農政治連盟)

美作支部



令和7年度堆肥舎等長寿命化推進事業(資材代のみ1/2以内助成) 実証事例のご紹介

本事業は経年劣化した堆肥舎等に対し、地域の実情に応じて部分的な補修の実証を行う取り組みを支援し、地域全体で堆肥舎等の長寿命化を推進することを目的として措置されました。令和7年度は3戸（3施設）で実証を行いましたので、実証事例をご紹介します。

補修方法及び事業内容等についてご質問等あれば、事業本部生産支援課（☎0868-26-1106）までご連絡ください。

施設① 堆積舎 屋根補修

・施設面積：1,296㎡ ・事業費（税抜）：10,293,965円（内補助金額5,146,982円）



施設② 堆肥舎 柱根巻改修工事

・施設面積：1,150㎡

・事業費（税抜）：249,000円（内補助金額124,500円）



施設③ 堆肥舎 屋根補修

・施設面積：235㎡

・事業費（税抜）：553,500円（内補助金額276,750円）



農業廃棄物は、適切な処理が求められ 焼却や埋め立ては禁止されています。 産業廃棄物としての処理が必要です。

農業廃棄物の定義

農業廃棄物とは、農業生産活動に伴って発生する廃棄物の総称であり、主に「産業廃棄物」と「事業系一般廃棄物」に分類されます。これらの廃棄物は、適切に処理されなければなりません。特に、個人農家であっても家庭ゴミとして処理することはできず、法律に基づいた処理が求められます。

処理方法

1. 焼却処理

農業廃棄物の焼却は原則として禁止されていますが、病虫害駆除や土壌改良のための例外が認められる場合があります。ただし、野焼きは法律で禁止されており、違反した場合は重い罰則が科されることがあります。

2. リサイクル

農業廃棄物の中には、プラスチック廃棄物や規格外の農産物が含まれます。これらはリサイクルや再利用が可能であり、特に生分解性マルチフィルムの使用が増加しています

3. 委託処理

産業廃棄物に該当する農業ゴミは、産業廃棄物処理業の許可業者に処理を委託する必要があります。

不法投棄の禁止

廃棄物をみだりに捨てること（不法投棄）は廃棄物の処理及び清掃に関する法律（廃棄物処理法）により禁止されています。

不法投棄を行った場合は、**最大で5年以下の懲役もしくは1,000万円以下の罰金**が科せられ、また、法人がその業務に関して行った場合は、**法人にも3億円以下の罰金**など、違反の内容により厳しい刑罰が科せられ、加えて行政処分も段階的に設けられています。

※自分の所有地であっても、廃棄物をみだりに捨てた場合は不法投棄に該当します。

野外焼却の禁止

廃棄物の野外焼却（いわゆる野焼き）も、廃棄物処理法により禁止されています。（一部の例外規定については次ページ参照）

廃棄物を焼却するときは、廃棄物処理法で定められた構造の焼却設備を使用し、定められた方法により行わなければなりません。

これに違反して廃棄物を焼却した場合は、**最大で5年以下の懲役もしくは、1,000万円以下の罰金**が科せられ、法人がその業務に関してこれを行った場合は、**法人にも3億円以下の罰金**が科せられる可能性があります。（※過失重度による）

※酪農現場で出るロール用ラップやネット、乾草梱包ラップや空きフレコンバッグ、飼料袋等の不法投棄や野外焼却は上記に該当します!!

※廃棄物を処理するためには、**産廃業者へ委託するか各種法律基準をクリアした焼却炉で処理することが必要。**



焼却禁止の例外規定

次に掲げるものは、公益上もしくは社会の慣習上やむを得ない廃棄物の焼却または周辺地域の生活環境に与える影響が軽微である廃棄物の焼却であるとして、例外的に野外焼却には該当しません。（これらの場合でも、周辺地域の生活環境に配慮して行う必要があります）

焼却禁止の例外	具 体 例
①国または地方公共団体その施設の管理を行うために必要な廃棄物の焼却	河川敷の草焼き（河川管理者）、漂着物等の焼却（海岸管理者）
②震災、風水害、火災、凍霜害その他の災害の予防、応急対策または復旧のために必要な廃棄物の焼却	災害等の応急対策、火災予防訓練、凍霜害防止のための稲わらの焼却（凍霜害防止のためであっても廃タイヤの焼却はNG）
③風俗慣習上または宗教上の行事を行うために必要な廃棄物の焼却	正月のしめ縄・門松等を焚く行事（とんど焼き）、塔婆の供養焼却
④農業、林業または漁業を営むためにやむを得ないものとして行われる廃棄物の焼却	焼き畑、畦の草及び下枝の焼却、漁網にかかったゴミの焼却
⑤たき火、その他日常生活を営むうえで、通常行われる廃棄物の焼却であって軽微なもの	落ち葉焚き、たき火、キャンプファイヤー

焼却設備の構造基準

◆次に掲げる基準をすべて満たしている焼却炉に限り使用することができます。

1. 空気取入口及び煙突の先端以外に焼却設備内と外気が接することがなく、燃焼室において発生するガスの温度が800℃以上の状態で廃棄物を焼却できるものであること。
2. 燃焼に必要な量の通風が行われるものであること。（空気供給装置等の設置）
3. 燃焼室内において廃棄物が燃焼しているときに、燃焼室内に廃棄物を投入する場合には外気と遮断された状態で、定量ずつ廃棄物を燃焼室に投入できるものであること。（二重扉構造等）
4. 燃焼室中の燃焼ガスの温度を測定するための装置が設けられていること。（温度計等の設置）
5. 燃焼ガスの温度を保つために必要な助燃装置が設けられていること。（2次バーナー等の設置）

◆焼却の方法については次の通り定められています。

- ・煙突の先端以外から燃焼ガスが排出されないよう焼却すること。
- ・煙突の先端から火災または黒煙が排出されないよう焼却すること。
- ・煙突から焼却灰及び未燃物が飛散ないように焼却すること。

各種法律基準をクリアしたさまざまな種類や大きさの焼却炉が販売されています。

・焼却可能なもの

木屑、紙屑、段ボール、PPバンド、フレコンバック、ペットボトル、ストレッチフィルム、牧草ラップ、飼料袋、梱包材等

・焼却不可のもの

廃タイヤ、ゴムマット、発泡スチロール、ウレタン、塩ビ製品（水道管、電線等）等



焼却炉（一例）

酪農現場で出る廃棄物の処理は、法律に基づいた処理が求められています。刑罰に発展しないよう基準をクリアした焼却炉での処理、あるいは認証を受けた産廃業者での処分等をお願いいたします。なお、焼却炉業者についての紹介を希望される方は、おからく事業本部までお問い合わせください。

第45回海外酪農研修

酪農研海外酪農研修に参加して

永禮 淳一

今回で45回目となる酪農研、海外酪農研修に参加してきました。

全国から、酪農研の会員8名と事務局である雪印メグミルク2名、雪印種苗1名、総勢11名で2月10日〜16日までアイルランド、オランダの2か国を訪問してきました。

まず初日、成田発、飛行機の乗り換えありで、アイルランド着が約18時間後：長かったですね。

視察1日目、アイルランドのIbc ec（アイルランド経営者連盟）にて、アイルランドの生乳取引の仕組みのレクチャーを受けました。加盟している団体には、酪農団体を含め、加工、販売店など多くの企業が参加した集合体でした。

アイルランドの経営規模は、飼養頭数100頭前後の家族経営体が大半を占め、家族を大事に次世代に引き継ぐ、テクノロジーやトレーサビリティの取り組みをしていました。また、農家同士は協同組合で組織された組合に所属し、利益の共有と持続可能性とイノベーションへの再投資を確保していました。

協同組合制度は、日本の価値観である協同責任、地域社会への利益の

反映は非常に良い参考になっていまして話されていました。

Ibc ecでは、日本語を用いて、「改善(Continuous Improvement)」を合言葉にして、いろいろ取り組まれています。

問題点は数多く、産業に対する不安、気候変動、農業政策に対する不安、高齢化、担い手不足とコロナ以降4・1%の減少などあげられていました。

良い点は、放牧酪農であること、酪農は大きな産業であり8万人の雇用があること、生乳生産量の93%は輸出していること、ファミリーファームが継続できていることで

す。

アーモンドミルク、オーツミルクなどさまざまなミルクはあるが、動物由来のミルクがでない限り、販売のラベルに「MILK」の表記はさせぬよう決まりを作っていました。

内容も濃く、質問など多数ありで予定の時間を大幅に過ぎましたが、素晴らしいレクチャーでした。そして、各々が決められた立ち位置で、取引ではなく、「良い取り組みをされていた」と感じました。

オランダでは、フリージアン（レット）200頭搾乳、平均乳量30kg、チーズ工房を併設する農家への視察でした。こちらの農家のテーマは、伝統的チーズ製法と現代的な高生産管理でした。

地下水位が高い土地なので、放牧、酪農が難しい土地であること、牛乳を生産して出荷すると言うより、チーズを作るために牛乳を搾るといった感じでした。チーズ作りは、現オーナーで6代目。水曜日のチーズ工房の掃除の日以外、毎日、生乳生産量の80%をチーズの原乳に充てているとのこと。

牛舎の一部にチーズショップの併設、チーズの自動販売機、生乳の自動販売機などもありました。2時間ほどの視察でしたが、牛乳、チーズを求める方は、途切れることなく、



視察農場の大きな看板

来られていました。チーズ生産で出た大量のホエイは、自社農場の豚の餌として、活用されていました。

オランダ2件目の視察は、「Floating Farm」名前の通り、川に浮いていました。

水上2階建て、水中1階の3階建て構造。水上2階部分で飼養頭数30頭のロボット搾乳、1階部分でTMR調整との自動配餌機。平均乳量22kg、餌に特徴があり、フレッシュオレンジの搾り粕、トウモロコシDDGSの絞り粕ペレット、ビール粕、グラスサイレージでした。水中1階は、野菜工場とチーズの熟成庫。

こちらの農場のテーマは、すべてをロッテルダム市内で完結させる目的で、フードマイルージに増加によ



アイルランドIbcにてのレクチャー



フローティングファームの案内看板

る環境負荷の低減でした。糞尿処理は、固液分離後、個体は固めて、建材などに利用していました。液体は、浄化して再利用することです。以前テレビのニュースで、存在は知っていましたが、何故に浮かべた？と質問したら、なんとオーナーは水上都市の建築家でした。だから水に浮かべただけだと：年間3.5万人が見学に訪れるそうです。あとは、アイルランド、オランダの伝統建築、歴史の視察、スーパーマーケット、チーズショップなどの視察を行いました。

料理の方は、どれもおいしく、特にバター、チーズが美味しいですね。野菜、果物も満足度は高かったです。

最後に、EUの酪農の現場を訪れ、環境に負荷を極力与えず、牛にも配慮し、目的に合った生産を心が

けていることを痛感しました。私は真似ることがたくさんあると思い、帰路につきました。

機会があれば、また、行きたい地です。

変化の時代に「生きる道」を求めて

小村 拓矢

【はじめに】

2026年2月、アイルランドとオランダの2ヶ国を巡る酪農研修に参加しました。私は父が創業した酪農を継ぐ34歳、前職は会社員として一般企業に7年勤めました。ちょうど新型コロナウイルスが社会を騒がせ始めた2020年に就農。それからの6年間は、感染拡大による需要の激変、さらにはロシア・ウクライナ情勢の悪化による飼料・エネルギー価格の爆騰など、酪農業にとって非常に厳しい時代となりました。依然として高止まりする飼料価格や物価高による経営難、働き方改革とは程遠い業界の現状に、どこか閉塞感を感じていました。「世界有数の酪農大国には、どんな風景が広がっている？」「彼らはこの時代をどう生き抜こうとしているのか？」そんな問いを胸向かいました。業界レポートではなく一般向けを意識し、私の冒険記と

してここに残します。

【第1章・アイルランド】

―数字の重圧と自然の合理性―

最初に向かったのは、乳製品の約9割を輸出する世界有数の酪農大国アイルランド。華やかな輸出額や美しい放牧風景が注目される一方で、避けては通れない環境問題を抱えている事実は、現地の乳業協会を訪問して初めて深く理解できた。

アイルランドは、「温室効果ガス排出量のうち、4割が農業由来である」と問題視されているが、これは国内に大規模な重工業が少ないゆえに、農業が悪目立ちする構造。さらに農業排出量の内訳を見ると、6割強が牛の反芻過程で発生するメタンガスだという。不利な構造とは言え、この不都合な数字の重圧によって、酪農業は常に環境改善を求められてきたという。牧草やエサ、添加剤の改良によるゲップの抑制など、様々な取り組みを強いられている。

一方、日本の酪農に目を向けると、この「牛の反芻によるガス」に関する議論は非常に限定的。これは日本がアイルランドとは反して、温室効果ガスの排出量が大きいエネルギー産業を抱えているからと言える。日本国内の総排出量のうち、農業セクターが占める割合は4%程度、牛の反芻ガスに至っては1%にも満たな

い。同じ生き物、同じ生業にも関わらず、これほどの数字の重圧を背負うアイルランド酪農には同情すら覚えた。しかし、日本の酪農においても反芻ガスによる環境問題を無視してよいものではなく、国際的に同調していかなければならない。また、環境問題という大きなカテゴリーは、その業界が置かれている情勢や国土環境によっても優先度は変化するものだと考える。日本においては、居住区と農地が混在する特殊な国土環境のなかで、徹底した臭気対策や汚物流出の防止が不可欠。今後地域住民の理解を得ながら、家畜の排せつ物を質の高い肥料へと昇華させ、再び大地へと還していく『地域循環型酪農』が不可欠であると感じた。

アイルランドでは現地のスーパーマーケットにも足を運び、乳製品の需給バランスや流通価格について調査した。そこでは、日本と欧州における「乳製品に対する価値観」の決定的な違いを目の当たりにした。前提として、現在の欧州は激しいインフレと円安ユーロ高の渦中であり、生活コストは日本の感覚を遥かに超えていた。国際的な物価指標となるマクドナルドの「ビッグマック」を比較する。セットを頼めば12ユーロ、日本円換算（訪問時レート…1

ユーロ185円)で2,200円にも達する。ポテトチップス一袋が650円と、あらゆる品目が日本の2倍以上の価格で並んでいた。その一方で、乳製品のコーナーに足を踏み入れると、価格の関係性が大逆転した。なんと、アイルランドでは牛乳1ℓが、240円程度で並んでいたのである。物価が半分以下の日本に目を向けると、私が出荷して店頭と並ぶ牛乳が300円/ℓほど。つまり、日本の酪農家は『販売単価』の面では恵まれているように見えるが、実態はその高い売価を飲み込むほどの脆弱なコスト構造を抱えていることを意味している。このギャップは両国の飼料の違い、そして搾乳量すら全く異なった経営方針の違いで生まれていた。アイルランド酪農は、広大な草地を最大限に活用する「放牧型」であり、主食はあくまで牧草(グラスフェッド)。これに対して、日本が戦後手本としてきたのは、いわゆる「アメリカ式」の多給飼育である。これはトウモロコシや大豆カスといった栄養価の高い「濃厚飼料」をふんだんに与え、一頭当たりの搾乳量を最大限に引き上げるハイパフォーマンスな経営モデルだ。しかし、この思想の差が、現在の経済状況下で残酷なまでに明暗を分けていた。アイルランドの放牧型

は一頭当たりの搾乳量は日本の平均よりもかなり少ないが、エサの多くを「自生する草」に頼るため、外部コストが極めて低い。だからこそ牛乳が240円/ℓでも、農家は持続可能な利益を確保できる。一方、日本のアメリカ式経営は、輸入資源に依存した「高コスト・高収益」を前提としている。しかし、記録的な円安とエサ代高騰という「猛烈な向かい風」が吹く今、このモデルは限界を露呈しているように感じる。搾った乳が300円で売れても、それを上回るスピードで輸入飼料代が手元の利益を削り取っていく。私が日々感じている「いくら働いても楽にならない」という閉塞感の正体は、私たちが世界で最も為替や国際情勢のリスクにさらされる日本酪農の中にいるからに他ならない。この現実を前に、飼料の自給化が進められているが、人手を要する管理酪農のかたわらでの飼料作りは、想像以上に過酷であり限界を感じている。国土環境の違いもあり、今すぐアイルランド放牧経営に切り替えることは困難であるが、人手をかけない経営方針も少しずつ取り入れる必要があると強く感じた。

【第2章…オランダ

―水に浮く未来への備え

アイルランドで『徹底した低コスト

ト』の衝撃を受けた私は、次なる目的地、オランダへと向かった。そこには、日本と同様の国土制限のなかで、また別の戦い方を実現する酪農の姿があった。それは最先端の象徴と言える、ロッテルダム港の浮かぶ「フローティングファーム(水上牧場)」である。オランダは国土の約4分の1が海面より低く、常に水害の脅威と隣り合わせの国だ。「土地が沈むなら、牧場ごと浮かべてしまおう」というSFのような発想で生まれたこの施設は、想像を絶する三層構造の「水上の要塞ファーム」だった。まず驚かされたのは、

その垂直的な空間活用だ。最上階の2階では、360度ひらけた開放的な空間で牛たちが優雅に過ごしていた。飼料も自動供給で、搾乳も自動ロボットが24時間稼働している。そこで搾られた乳は真下の1階へ送られ、清潔な生乳加工場とチーズ製造所に直結している。さらに驚くべきは水中へと及ぶB1階だ。水温によって一定の温度が保たれる水中の特性を活かし、広大なチーズ保存庫として利用されていた。その隣には野菜工場が併設され、太陽光の届かない水中施設で独特な紫色のLED照明で作物が育っていた。限られたスペースで多角的に生産する執念を感じた。更に、要塞ファームの周り

の水上には、ソーラーパネルが点在し、波間にプカプカと揺れながら施設のエネルギーを補っていた。エサの確保もユニークだ。ここにはアイルランドの広大な牧草地はない。近隣の都市部で発生した果物の皮などの残飯(食品ロス)を回収し、栄養豊富なエサとして再利用していた。この施設、思想の全てが私の経験や今後の酪農構想からは大きく逸脱し、遙か先を行っているように感じた。しかし、昨今の地球温暖化や海面上昇が迫るなか、島国日本も他人事のように思えなかった。おそらくそれは、遙か先の未来の危機であり、私が備えるには飛躍した想像かもしれないが、忘れることのできない、とてもエキサイティングな訪問となった。

【第3章…酪農家の幸せ

―カプティン農家の教え

今回の欧州研修で最も大きな収穫であり、今後のモチベーションに繋がる訪問先となったのが、阿姆斯特ダム近郊に住む家族経営のチーズ農家、「Kaasboerderij Captein(カプティン農家)」だ。案内してくれたのは、小さなお子さんを持つ、笑顔の素敵な牧場の奥さんだ。この農家は、見事な家族の連携で成り立っていた。旦那さんが牧場業務全般を担い、奥さん

んと従妹夫婦がチーズ部門を担当する。訪問時、還暦を越えたお父さんはチーズの配達に出発し、旦那さんは大きなトラクターでエサの仕込みに追われ、言葉を交わす暇もないほどだった。隣接する伝統的なレンガ造りの美しい自宅を見上げながら、その多忙さは想像を絶するものだと感じた。

私が訪ねたのは朝の9時過ぎ。深夜3時から搾乳はとづくに終わり、約200頭の牛たちは牛舎でくつろいでいた。なぜこれほど早く搾乳をする必要があるのか。それは、搾乳直後の新鮮な生乳の質を最大限に活かしつつ、膨大な手間を要するチーズ製造の時間を確保するためだという。当日はチーズ製造の休止日だったが、工房ではチーズ製造に使用し終えた「木樽」をガシガシと洗う姿があった。座布団ほど大きく、重い木樽を洗うのは見るからに重労働。「プラスチック製なら軽くて楽なのにと尋ねると、奥さんは「伝統的な製法、そこにある『ストーリー』を現代でも大切にしているのよ」と誇らしげに答えた。エントランスに構える直売所の扉を開けると、艶やかなチーズが並んでおり、ブワッと芳醇なチーズの香りに包まれる。また、お店に入らずとも店先にはチーズ自販機やボトルを持参し

て購入できる「搾りたて牛乳自販機」が並ぶ。平日の朝、地元の常連客はまるで新聞を取りにきたかのような日常の感覚で次々と訪れている。奥さんは笑顔で絶やさず、お客の一人ひとりと楽しげに言葉を交わしていた。生産者と消費者の交わす笑顔が、とても幸せそうで眩しかった。農協出荷を主とする私は、これまで消費者の顔が見えないまま日々の業務に追われ、モチベーションを失いかけていた。「休めない、休めない」と閉塞感を感じることもあった。だが、私以上に忙しいはずのカプティン一家はどうだろう。彼らは、驚くほど幸せそうに毎日の仕事をこなしているのだ。なぜ、彼らはこんなに幸せそうに仕事をしているのか？それは、自分たちの乳の価値を自分たちで決め、それを喜んでくれる人の顔を直接見ているからに他ならない。私は、この何気ない朝のお店の光景を忘れることはできないだろう。それと同時に、今の経営スタイルで生涯を終わらせることは、『生産者の喜び』を味わえぬまま終わる人生ではないかと、危機感を感じた。日々の業務に追われながらも、今後はさまざまなカタチを模索し、埋もれてしまわぬよう改めたい。ハイテクな水上牧場が「未来の形」を見せてくれたのだとしたら、

このチーズ農家は「いつの時代にも変わらぬ酪農家としての幸せ」を私に見せてくれた。

【おわりに】

アムステルダムの建築美が、まるで幻だったかのように感じさせるほど、私の欧州研修は瞬間に幕を閉じた。時差ボケを感じながら迎えた日本の翌朝、私はいつもの牧場へと向かう。これまでは気が乗らないまま心押し殺して仕事をする日もあった。しかし、この日は「やっと自分の牧場に戻ってきたぞ」と、前向きな自分が変わっている。輸入エサの高騰や円安という「向かい風」を嘆く時間は、これで終わりにする。アイルランドで見つけた合理的なオランダで見つけた付加価値への執念、そして何よりもあの笑顔。これらを携え、私は私の牛舎で新しい一歩を踏み出す覚悟ができた。

また、今回の視察研修に際し、(一財)おからく教育振興会から研修助成をいただきました。ありがとうございました。ございました。



「供卵牛情報と採卵計画（5月分）」について

岡山県農林水産総合センター 畜産研究所

5月の採卵計画をお知らせします。

ご利用の場合より詳細な情報が必要な場合は、最寄りの家畜保健衛生所、受精卵移植師の方等にご相談ください。

なお、能力評価を牛群検定成績から行うため、検定参加農家の方を譲渡対象としています。

また、採卵予定日や交配予定種雄牛については、急遽変更になる場合がありますので、あらかじめご了承ください。次回の採卵は6月11日を予定しています。

※ご要望・ご意見等ありましたら、畜産研究所までご連絡ください。

【優良牛】（選別性判別無し@32,560、雌判別@43,450）	供卵牛の遺伝能力評価等	採卵予定日
<p>♀：OAC リツプステイック モントーヤ リア ライラック ET 登録番号：13909 7316 5 輸入卵産子、総合指数・産乳成分に優れる</p>	<p>総合指数 5% 2908</p> <p>産乳 3% 195</p> <p>耐久性 17% 60</p> <p>疾病繁殖 89% -63</p> <p>乳代効果 4% 102549</p> <p>長命連産効果 4% 54044</p>	5 / 14
<p>♂：トウルーパー (614H15179) 米国6位 乳成分に優れる 乳器、肢蹄が良好でロボット向き</p>		

交配精液は、長命連産事業対象 (@6,000円) です。
事業の詳細は、おかやま酪農協へお問い合わせいただくか、農林水産省のホームページをご覧ください。

在庫卵情報（在群上位牛、ダイレクト凍結卵）

R 8年3月末時点

採卵牛	総合指数	順位	系統	種雄牛	TPI	NTP	在庫数	
ウルル	1390973202	3267	1%	ウエストジェット	トウルーパー (♀) 614H15179	3334	3645	3
					オーウエン (♀) 777H12666	3089	-	6
					エンパワー (♀) 629H20939	3072	-	7
					レネゲード (♀) 550H14134	3058	3198	3
キヤツプ	1509873645	3116	1%	チヤシテイ	パースーツ (♀) 777H11186	3030	3136	6
キヤスト	1354972036	2928	4%	キヤメロン	デデイケート (♀) 551H3590	2998	2760	3
キルト	1354871971	2915	5%	キヤロットK	レッチワース (♀) 550H16110	3128	2863	4
リア	1390973165	2908	5%	リラZ	トウルーパー (♀) 614H15179	3334	3645	4

全て選別精液ダイレクト凍結卵
その他、性判別雌卵（ガラス化保存）等もありますのでお問い合わせください。

乳汁による牛の妊娠検査(PAG検査)について

PAG検査については、過去に何回か書いていたので、ご存じの方が多いかと思います。PAG検査のPAGとは、牛の胎盤から分泌される物質で、それを乳汁で検査することで妊娠診断として利用できます。普段、妊娠診断については、獣医師に依頼される方が多いかと思いますが、今回は、PAG検査のメリットや利用法について、紹介します。

①牛をつかまえることによるストレスを減らすことができる

実は、つかまえることで牛はストレスを感じます。ストレスホルモンといわれるコルチゾールや恐怖や痛みによるアドレナリンの分泌があり、乳量が低下するという報告があります。つかまっている時間が長いほどその傾向が強くなるのが考えられ、翌日の乳量にも影響します。フリーストール、フリーバインの場合、つかまえないわけにはいきませんが、妊娠診断の牛については、PAG検査を利用することで、検診時の牛がつかまっている時間を減らすことができます。(図1)

②妊娠中期・後期への利用

妊娠中期・後期は、流産のリスク

は低いのですが、「妊娠していると思っていた牛が実は妊娠マイナスだった」なんてことはありませんか。特に分娩予定日になっても産まない。おかしいなと思って、獣医師を頼んで「妊娠してませんよ」などと言われてしまうと、目の前が真っ暗になりますよね。その場合、30万円の損失があるとも言われていますから、踏んだり蹴ったりです。それを防止するために乾乳前にもう一度妊娠検査をする方もおられますが、この時にPAG検査の利用をお勧めします。妊娠後期は胎児が大きくなり、牛のお腹の下の方へ沈んでしまいうので、直腸検査やエコー検査では判断が難しいことがあります。過肥牛では特に見づらく、さらにミイラ胎児だった場合、判断が難しいこともあります。そんな時は、ぜひ、ご利用ください。

③注意していただきたいこと

授精後30日程度の妊娠診断でご利用していただいた場合は、さらに1ヶ月程度間隔をあけての再度の妊娠検査をお勧めします。授精後30日程度の時点で確定してしまうのは危険です。この時期は流産のリスクが高い時期であるためです。

現在PAG検査

は、カブト家畜病院で行っています。検査料は1検体当たり1,100円(税込)ですが、令和8年度については、おからくから500円の助成を行います。検体の出し方については、各地区にて異なりますので、詳細について知りたい方は、おからく各事務所または、生産支援課(清水)までお問い合わせください。また、追って本助成事業についての案内文を組合員の皆様に配布予定ですのでそちらをご覧ください。この機会にご利用いただき、繁殖管理の改善の一助となれば幸いです。(生産支援課)

A農場 (搾乳頭数69頭)

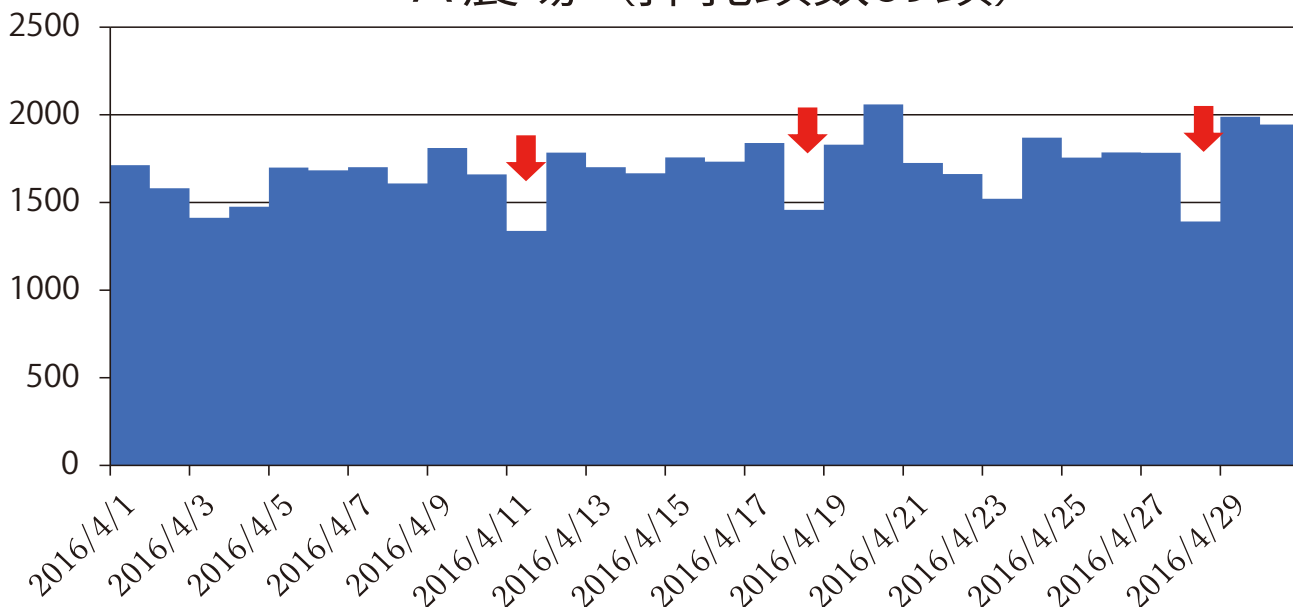


図1 日々の乳量推移のグラフ(繁殖検診の翌日の出荷乳量が低下しているのがわかる)

中東情勢悪化に伴う影響について

全国酪農業協同組合連合会 大阪支所 購買畜産課 西澤 宙大

自己紹介

いつも大変お世話になっております。立春の候、皆様方におかれましては、ますますご活躍のことと存じます。

大阪支所へ2月より輸入粗飼料の担当として着任した西澤と申します。

2月28日、アメリカのトランプ大統領がイスラエルとともにイランへ侵攻を開始しました。現在中東情勢の緊張は極度に高まっており、一向に予断を許さない状況です。今回は日々悪化する中東情勢に絡めながら、輸入粗飼料に与える影響等について触れさせていただきます。

エネルギー関連

すでに皆様のご家庭にも影響が出ているかと存じますが、現在の日本はエネルギー資源を中東に依存しており、今後戦争の長期化により原油価格へ大きな影響が出てくると推測されます。大きな影響として下記3点が出てくると考えています。

①米国輸送コストの上昇

→多くの牧草を輸入している米国・豪州サプライヤーから燃料代高騰における価格値上げ(緊急燃料サーチャージ)が打診される可能性が高い状況となっております。

なお、アメリカ自動車協会(AAA)は3月10日にはレギュラーガソリンの全米平均が1ガロンあたり\$3.539になったと報告し、平均価格はイラン攻撃前に比べ55セント以上上昇しています。

②海上運賃の上昇

→既に「ONE」・「MSC」等の主要船会社が緊急燃料サーチャージ導入発表をしており、今後多くの船社が追随する可能性が高いです。なお、「ONE」は現在\$8~160の導入を発表しており、日本円に換算すると約1円以上の値上げが見込まれます。適用開始は4月1日以降一部航路を除き、コンテナの積地出発基準での打診が来ている船社もあります。

※各船社によって条件が異なるため、あくまで参考として記載しております。

③国内輸送コストの上昇

→牧草を配送するトラック・トレーラーの燃料代高騰により各社運賃値上げの可能性があります。

為替変動

イラン戦争開始時より東京外国為替市場では対ドル円相場が1月23日以来1ドル=159円台をつけ、現在もなお円安傾向は進行中です。円安が継続されれば、牧草だけにとどまらず、大豆・小麦といった配合飼料の主原料にも影響が出ることとなります。今後、物価高と貿易収支悪化により更なる円安が心配されており、今後の為替動向に注視する必要があります。

海運情勢の悪化

①ホルムズ海峡封鎖による影響

イラン側が米国とイスラエルの攻撃に対し、報復措置としてホルムズ海峡を封鎖しています。ホルムズ海峡はペルシャ湾とインド洋を結ぶ唯一の航路であり、世界原油の2割以上が通過する世界最大のエネルギー供給大動脈です。イラン側はエネルギー価格を高騰させ欧米諸国へ打撃を与える狙いがあると思われ、陸路のパイプラインはあるようですが、輸送能力に限りがあり、海峡封鎖に対する代替手段とはなりえないようです。

なお、日本も原油輸入の多くがストップすることになるため、ガソリン価格・電気代の暴騰、化学製品の生産中止など大きな打撃を受けることになります。

②入船遅延の可能性

ホルムズ海峡封鎖の影響は船足の遅延にも出てくると示唆されております。ホルムズ海峡を使用できなくなったことにより、起稿時現在で約200万コンテナ相当の貨物が影響を受けているというデータもあり、これは世界の海上コンテナの約8%に相当するとみられています。

この封鎖を受け、各船会社は大幅な航路変更を余儀なくされており、アフリカ南端の喜望峰周りへのルートを取るケースが多くなっています。喜望峰周りのルートとなると約2~3週間ほど輸送日数が延

長され、それに伴い燃料代等のコストも上昇するとみられています。

仮にホルムズ海峡の封鎖が解除されたとしても、影響は続くと思われています。特に豪州より主に輸入されるオーツヘイ等は影響が大きくなる可能性があります。理由として、オーツヘイに限らず豪州からのコンテナは出港後、チンタオやシンガポールなどの東南アジア主要港で日本向けにトランジット（コンテナ積み替え）されるケースが多く、ホルムズ海峡周辺で滞船していた貨物（タンカー船など）が一気に動くと、東南アジア主要港へ船が集中し港湾へ入れず滞船が多くなり、日本向けのコンテナ船が後回しにされるケースが増えてくるためです。

対策について

一個人でできることには限りがあるかと思えます。また、船社の状況や各会社での倉庫の在庫状況により粗飼料の価格や物流は大きく異なることも増えてくると思います。そこで、まず安定供給・粗飼料確保のため普段輸入粗飼料を購入されている会社担当者から正確な入船状況を聞き、きちんと牧草が納品されることを日々確認されることを強くお勧めいたします。

おわりに

今回イラン情勢について長々と書かせていただきましたが、先行きの見えない暗い話ばかりになり申し訳ありません。いち早く戦争終結されることを願い、末筆とさせていただきます。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。



どちらが好きかと言われれば、トラックやトラクターに乗っている時間の方が好きですね。しかし酪農あつての仕事なので牛も大好きです。トラックに乗ってバイトに行ったり、肉転の運搬などのバイトもよくやっています。酪農をやっている時間の合間を縫ってやっていることなので、趣味みたいなものです。働くことが好きなので、いろいろなことをやって毎

ひろば 私の仕事

びほく事務所 上森 亨

私の仕事は酪農ですが、その傍らでトラックにも乗っています。

日を楽しく過ごしています。酪農という牛を飼う職業をやりながら、好きなトラックに乗り、いろいろなところを走り回る仕事もできるこの酪農という職業をこれからもずっと続けていければ最高だと思います。



酪農生産研究会冬季研修

3月2日～3日の日程で酪農生産研究会の冬季研修に参加し、熊本県内の施設等を視察させていただきました。

初日は、熊本県菊池市にある全酪連若齢預託熊本牧場を視察しました。

生後6日齢から6ヶ月齢までを預けられる牧場で、常時540頭程度が飼育されています。病気にかかりやすい時期の子牛を預かるためのい

ろいろな工夫がなされていきました。その中でもストレスを受けやすい除角を手早く行うために、自作の除角枠は非常に参考になりました。ミルク代も高騰している中で、作業の手間が軽減されるばかりでなく、事故率も下がると持続的な酪農に向けての可能性を感じられました。

2日目はらくのうマザーズとの意見交換会の後、工場内を見学させていただきました。最初に熊本県酪連管内の事業の概要を拝聴し、一緒に参加していた各県の取り組みや暑熱対策について情報交換しました。

工場の概要説明
らくのうマザーズの工場は、牛乳・デザートを製造している熊本工場と主にロングライフ牛乳（LIL牛乳）の製造をしている菊池工場の2ヶ所があり、今回は熊本工場を視察させていただきました。生乳の受入れのようすを見ながら説明を受けた後、牛乳の製造ラインを見学し、生乳が製品として出荷されるま



工場視察のようす

での工程や衛生管理の取り組みについて理解を深めることができました。

熊本までの往復を含めて2日間という短い時間ではありましたが、大変有意義な研修になりました。当日だけでなく事前の準備や各方面への調整等、事務局の方には大変お世話になりました。この場を借りてお礼申し上げます。

(生乳課)



若齢預託熊本牧場視察のようす



自作の除角枠

令和8年4月1日付人事異動

職員名	新	旧
清水 正裕	事業本部 次長（兼）生産支援課 課長	事業本部 生産支援課 課長
大西 克巳	事業本部 次長（兼）流通課 課長	事業本部 流通課 課長
遠藤 健嗣	備南事務所	津山事務所
枝木 優治	津山事務所	備南事務所
湯浅 達也	総務部総務経理課（兼）内部監査室	総務部総務経理課
安藤 大悟	総務部総務経理課（兼）特別対策室	総務部総務経理課

人事

新採用（令和8年4月1日付）

林 俊志（蒜山事務所）

専任ヘルパー



野川 さつき（西大寺事務所）

専任ヘルパー



臨時職採用（令和8年4月1日付）

田中 天（事業本部 鏡野CS）

退職（令和8年3月15日付）

森崎 陽子（事業本部 鏡野CS）

退職（令和8年3月31日付）

中尾由美子（総務経理課）

直原 里江（事業本部）

生産支援課

訃報

令和8年3月15日、当組合の代表理事組合長、またその他数多くの要職を歴任され酪農・乳業の発展にご貢献いただきました千葉靖代様が御逝去されました。謹んでお悔やみ申し上げます。

池上 正紘（事業本部）

生産支援課

大変お世話になりました。

理事会報告

令和8年3月2日、第310回理

事会を理事9名、監事3名が出席し、開催した。

楡尾組合長より酪農一般情勢等について報告された。次いで監事団より、定例監事監査（第3四半期決算）の報告があり、各委員会から令和8年年度予算について協議内容の報告があった。

その後、次の事項を協議し、決定した。

○令和7年度生乳需給安定化対策について

令和7年度1月の生乳需給安定化対策の進捗状況等について報告した。

○令和7年度着地見込及び令和8年度事業計画について

令和8年度事業計画（案）を協議し、策定した。なお、令和8年度の基本方針を次のとおりとした。

生乳生産量 89,000t

購買取扱量 58,000t

流通取扱頭数 7,600頭

○出資減口について

減資申し込みがあったが、乳代控除不能金正常化を目的とした出資減口の申し込みのため否決した。

○生産支援課助成事業について

令和8年度の生産支援課の事業について報告があり、内容を協議し、一部再検討とし、再協議とした。

○流通事業貸付利率の変更及び実施規定の一部変更について

借入金利上昇に伴う流通事業貸付利率の変更について協議し、5.0%とすることを承認した。また、これに伴う実施規定の一部変更について内容を協議し、承認した。

○免税事業者の取り引きについて

免税事業者の取り引きについて内容を協議し、承認した。

○配送運賃の改定について

バラ飼料配送運賃の値上げ要請があり、配送運賃の改定について内容を協議し、30銭/kgの値上げを承認した。

○販売手数料の変更について

販売手数料の変更について内容を協議し、手数料3%から4円固定に変更することを承認した。

○報告事項

現物監査及び令和7年度決算等の今後の日程について、現況調査の報告について、全酪連飼料価格特別対策について報告した。

津山事務所・津山SP

津山事務所長・SP所長 小島 悟司
 津山事務所長・SP所長補佐
 長須 悠樹
 兼宗 修平
 枝木 優治
 小嶋 真琴

ヘルパー

青草 真一 川口 権悟 馬澄 真吾
 倉田 春樹 池田 琴美

蒜山事務所・蒜山SP

蒜山事務所長・SP所長
 (獣医師) 神野 卓哉
 蒜山事務所長・SP所長補佐
 片岡 純一
 小椋 一樹
 児玉将竜郎
 エリアアドバイザー
 (嘱託) 山本 恭子

ヘルパー

溝渕 義幸 渡邊 玲音 林 俊志

西大寺事務所・西大寺SP

西大寺事務所長・SP所長
 高橋 信介
 西大寺事務所長・SP所長補佐
 豊浦陽二郎
 阿部 静香
 谷口 綺

ヘルパー

真壁 福元 武田 昭彦 野川さつき

備南事務所

備南事務所長 池田 直人
 岡本 雅代
 遠藤 健嗣
 向井扶祐美

ヘルパー

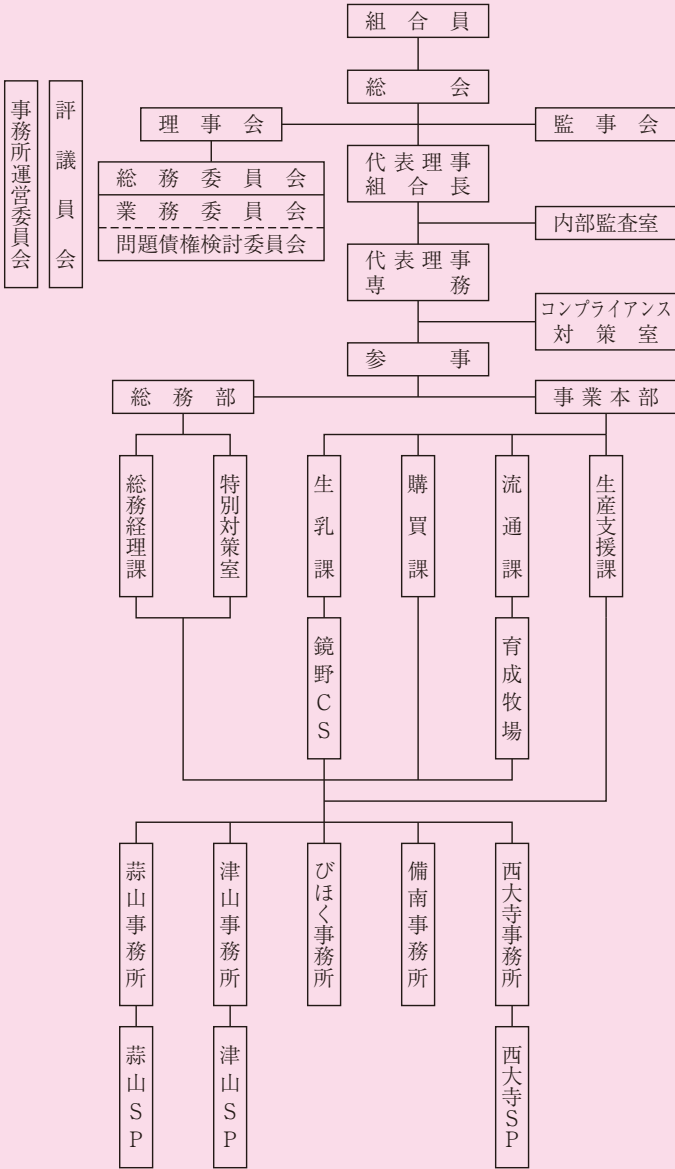
齊藤 和樹

びほく事務所

びほく事務所長 延藤久美恵
 びほく事務所長補佐
 (獣医師) 矢野 敬雄
 樋口 晋一
 濱田 高美

ヘルパー

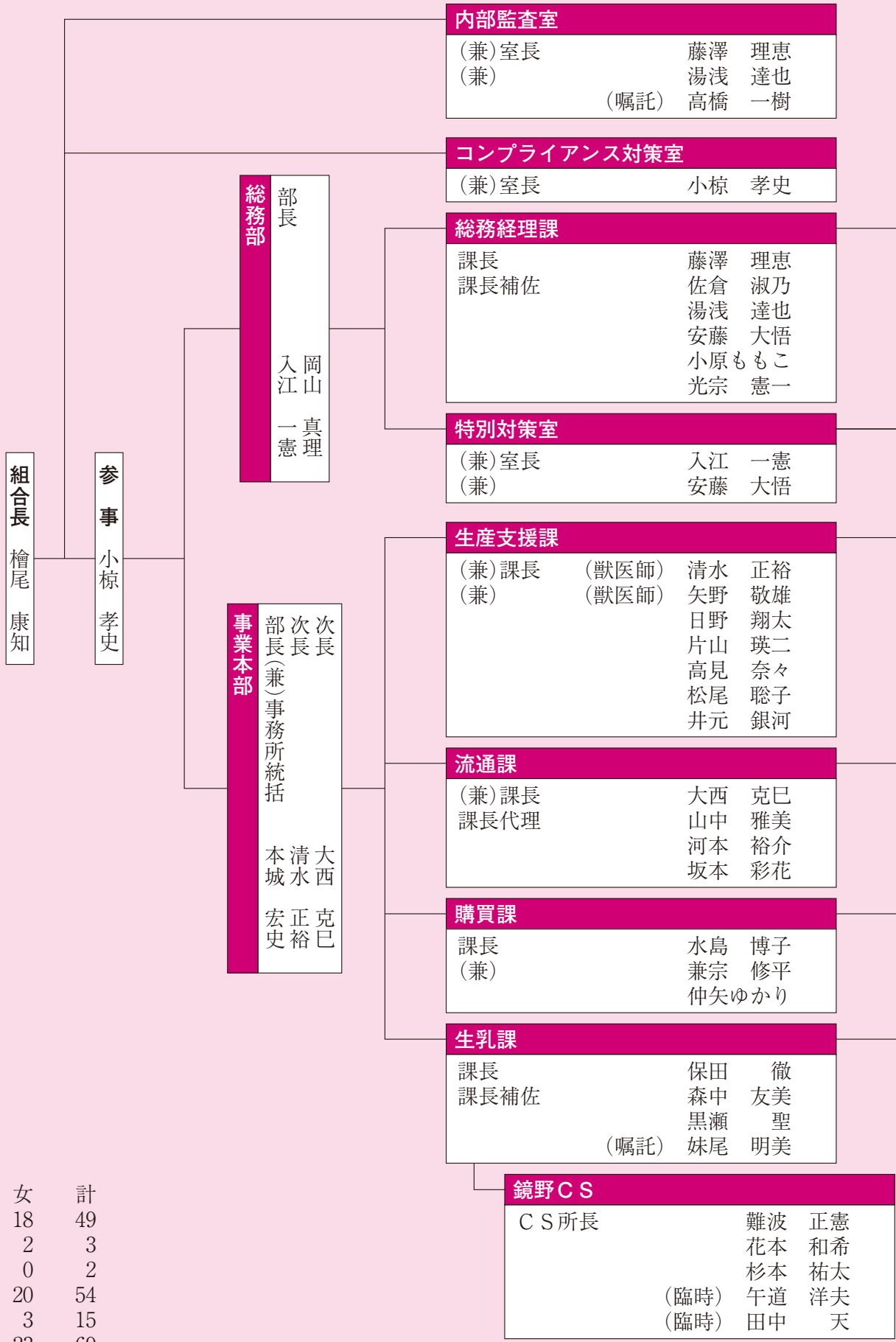
佐久間和歌 廣金 佑太



本所 総務部
 ☎ 0868-26-1101 Fax 0868-26-6763
 事業本部 (生産支援課)
 ☎ 0868-26-1106 Fax 0868-26-6994
 事業本部 (流通課)
 ☎ 0868-26-1104 Fax 0868-26-6763

機構図

(令和8年4月1日付)



内部監査室		
(兼)室長	藤澤	理恵
(兼)	湯浅	達也
	(嘱託) 高橋	一樹

コンプライアンス対策室		
(兼)室長	小椋	孝史

総務経理課		
課長	藤澤	理恵
課長補佐	佐倉	淑乃
	湯浅	達也
	安藤	大悟
	小原	ももこ
	光宗	憲一

特別対策室		
(兼)室長	入江	一憲
(兼)	安藤	大悟

生産支援課			
(兼)課長	(獣医師)	清水	正裕
(兼)	(獣医師)	矢野	敬雄
		日野	翔太
		片山	瑛二
		高見	奈々
		松尾	聡子
		井元	銀河

流通課		
(兼)課長	大西	克巳
課長代理	山中	雅美
	河本	裕介
	坂本	彩花

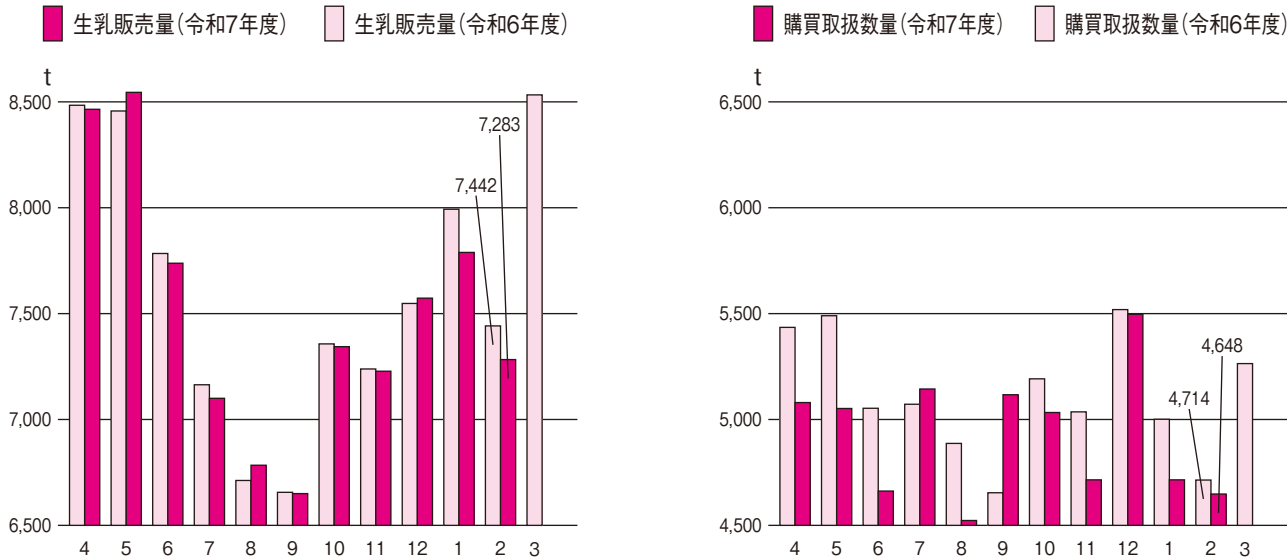
購買課		
課長	水島	博子
(兼)	兼宗	修平
	仲矢	ゆかり

生乳課		
課長	保田	徹
課長補佐	森中	友美
	黒瀬	聖
	(嘱託) 妹尾	明美

鏡野CS		
CS所長	難波	正憲
	花本	和希
	杉本	祐太
	(臨時) 午道	洋夫
	(臨時) 田中	天

	男	女	計
正職員	: 31	: 18	: 49
嘱託	: 1	: 2	: 3
臨時	: 2	: 0	: 2
小計	: 34	: 20	: 54
ヘルパー	: 12	: 3	: 15
合計	: 46	: 23	: 69

おからく事業実績



生乳統計

※中央酪農会議速報より抜粋

地域	月	受託乳量(トン)	用途別処理量(トン)			前年比(%)			
			飲用乳等向け	乳製品等向け	その他	受託	飲用乳製品	その他	
全国	2	534,599	248,016	153,895	132,688	99.0	97.2	101.1	99.8
	4~2	6,248,860	3,024,258	1,657,321	1,567,250	100.5	98.6	104.4	100.2
岡山県	2	7,283	6,713	484	86	97.9	96.7	160.3	43.7
	4~2	82,501	77,000	4,407	1,093	99.6	99.2	110.4	88.6
北海道	2	309,408	50,491	130,135	128,782	99.2	96.8	99.4	100.1



主な行事

4月

- 1日 現物監査
- 4日 第5回西日本B&Wショウ (~5日)
- 6日 酪青女西日本発表大会 (~7日)
- 12日 第22回蒜山高原 ジャージースプリングショウ
- 17日 2026セントラルジャパン ホルスタインショウ (~18日)

- 23日 管理職会議
酪農関係事業推進会議

- 30日 理事会

5月

- 14日 定例監事監査 (~15日)
- 21日 管理職会議

北海道初妊牛価格

3月については、春分娩中心の出回りとなったものの、大幅な初妊牛価格の上昇による様子見感の広がりにより、税込84万4千円(前月比11万4千円安・前年比18万9千円高)と値下げで推移しました。

4月については、出回り頭数の増加が見込まれ、一部夏分娩が出回り始めることが予測されることから、初妊牛相場は弱含みで推移することが予測されます。